

# 特許紹介

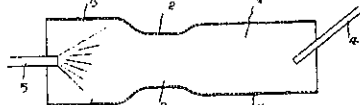
第26巻第9號 昭和15年9月

## セメント焼成方法

(特許第13327號 發明者 熊谷國男)  
(特許権者 日本石炭煉瓦製造株式會社)

中間に狹窄部(2)を設け之より下方のバーナー挿入口たる焼成帶部(3)の徑を、上方の原料供給部(1)の徑より大ならし

圖-1. 同轉燒成窯



めた同轉燒成窯(圖-1)を使用し、揮發成分の僅少な

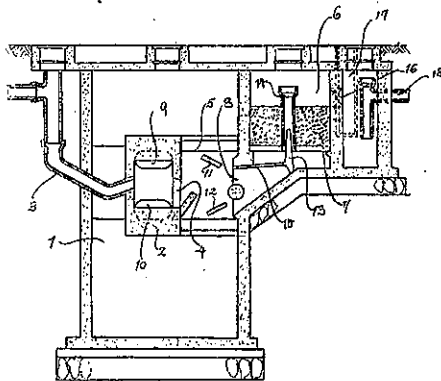
無煙炭コークス等の細粉とセメント原料粉末との混合物を原料供給部(1)に供給し、有煙炭に無煙炭を混合した短焰バーナーを以て燒成帶部(3)に於て燒成する方法であるが、狹窄部(2)によつて區分せられた上方の原料供給部に於て混入せる粉末無煙燃料によつて溫度を上昇させて原料の一部の分解、水分の蒸發セメント燒成作用の一部を行はしめ、狹窄部により徐々に燒成帶部に落下させ、恰も坩堝狀の燒成帶部に於ては無煙炭の含有に依り發生する短焰を以て完全に燒成し、比較的短い窯により多量のセメントを燒成する事を得るやう設計工夫したものである。

## 淨化装置

(特許第136357號 發明者 篠野きん)  
(特許権者 篠野きん)

下部に沈澱物吐出口(10)と上部に浮游物吐出口(9)を設けた分離槽(2)を腐敗槽(1)内に設備し、且つ分離槽(2)の下部一側には斜上方に向ひ半清水流出口を濾過槽(6)の給水口(8)に至る環流筒(5)内に開口し、更に濾過槽(6)の下部給水面に給水口(8)と分離せしめるや

圖-2.



うに旋流放射筒(13)を設備し、其の放射筒の射出口徑を汚水導水管(3)の口徑に比し遙かに小ならしめ、環流污水内の清澄汚水と汚物分離後の水とを充分に攪拌して

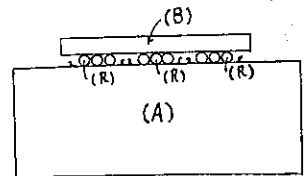
飽和状態に至らしめ、濾過槽の下面より上面に向つて濾過するやうにしたもので、汚物の酸化を空氣に依らしめず水中酸素を充分利用するやうに設計した點に特徴を有する(圖-2)。

## 制震性耐震構造

(特許第136411號 發明者 龍部通樹平)  
(特許権者 龍部通樹平)

震動を受ける構造物の上層に轉動體を介して前記構造物の振動の方向と逆

圖-3.



方向に移動するやうにした荷重層を設けたもので、之に依り構造物の呈する振動の振幅を減少せしめ、従つて構造物が振動によりて蒙る被害を軽減せしめんとするものである。圖-3は本發明の原理を示す圖で、Aは構造物、Bは荷重層、Rは輾動體である。

## 混合ポルトランドセメント

(特許第136459號 發明者 寺田建藏)  
(特許権者 寺田建藏)

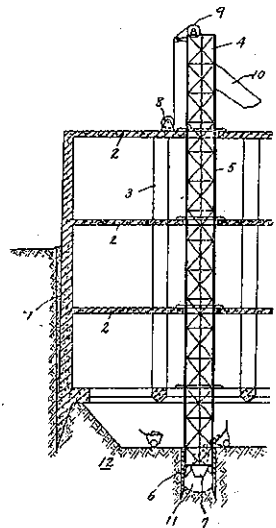
火山礫細末又は火山灰及酸化チタンウムを添加混合した混合ポルトランドセメントであり、凝結時間の短縮を企圖したものである。

## 建造物沈下工法に於ける土砂搬出装置

(特許第136468號 發明者 大内二男)  
(特許権者 竹中工務店)

地下室等の建造物を地上に於て構築し然る後底部地盤を掘つて自重に依り之を地中に沈下せしめる工法を用ふる場合の土砂の搬出を簡單容易ならしめんが爲に考案したものである。即ち前記の如き建造物を貫きて且強固に土砂搬出機の支柱(5)を設け、其の下端は底部地盤に他部分より一層掘り下げた凹高部分に迄延長させ、其の延長端には土切刃(6)を圍繞充着し建造物の沈下に從ひ自動的に地盤に穿入するやう

圖-4.



にし、且周囲の土砂の崩壊を防止するやうにしたものである。圖-4 中 (7) はバケット (8) は捲上機 (9) は轉子 (10) は土砂排出樋を示す。その利點とする所は、搬出機を既に構築せる建築物に強固に定着して之と共に沈下せしめるものなるが故に搬出機の基礎工事が不要であり且その支持が安全確實である點、並びに搬出機下端が底部地盤中の凹窩中に延在するが故にバケットへの土砂投入作業が容易且迅速なる點にある。

動的に且連續的に吸氣燃燒せしめるやうにして構造の簡易取扱の容易を圖つたものである (圖-8)。

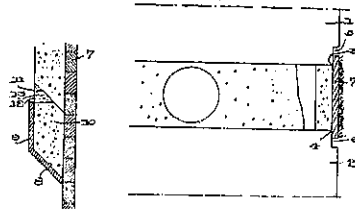
(附) 登録實用新案

潜函防水接手

(第 281027 號 公告 17 年第 263 號)  
(實用新案權者 白石安士良)

圖-7 に見る如く、相接して沈下せしむべき潜函 (1)

圖-7. 左圖は平面 右圖は縦斷



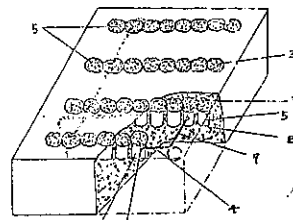
及 (2) の左右兩側の隅に凹所 (5 (6) を刻設し、各潜函を所定位置に沈下せしめた後、土留堰板 (7) を嵌め込み傾斜せる下面 (11) を備へる側壁部分を上方より下方に向つて逐次形成せし上下側壁部分の接合部に於ける三角状凹所にモルタル (15) を填充して施工したるもので、防水工の完全コンクリートの注入の簡便を圖つたもの。

コンクリート鋪裝板

(第 284312 號 公告 15 年第 477 號)  
(實用新案權者 梶岡二)

節部横斷面を有する竹片を多數並列、芯全に依り貫挿したもの (圖-8)。

圖-8.



基礎杭

(第 284518 號 公告 15 年第 1115 號)  
(實用新案權者 鈴木正男)

從來公知の内管又は外管等を使用することなく基礎杭を直接的に構成せしめたるもの。有孔介装筒——鐵筋網ラス、打抜飯等より成る——を使用し其の接合部に接合環を附して連續延長せしめ、下端には之より幾分大徑の容體を定着して、之等を適當な手段により打込み、筒の内部及其の外周間隙にはコンクリートを注入せしめて有孔介装筒を芯とした基礎杭を構成せしめるのである。

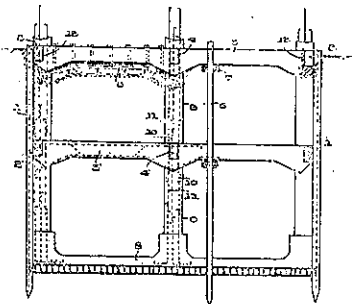
鐵筋コンクリート建築物の梁を山留用

張木に置換へたる山留工法

(特許第 136593 號 發明者 關島政吉)  
(特許權者 清水組)

從來山留作業に使用せる腹起し及張木を全然使用せず矢板 (1) 埋設後直ちに建築構造材となるべき鐵筋コンクリートの側梁 (2) 及梁 (3) を山留工事用材に利用して山留工事を施行する方法で、尙山留コンクリート梁には豫め柱筋を差込み置き、基礎から立上れる鐵筋コンクリート柱 (9) の鐵筋とを連繫するものである。以上の如くすれば從來山留作業に使用せる腹起し及張木の工事費並に材料費を節約し得る利點がある (圖-5)。

圖-5.



内燃鑿岩機

(特許第 136680 號 發明者 村濱元)  
(特許權者)

唧子軸に第一筧子 (4) 及第二筧子 (5) を設け各筧子を氣筒 (2)(3) の分割室に夫々摺動自在に嵌製し各室に於ける筧子の兩側を夫々第一燃燒室 (7) 及第一氣室 (8) と第二燃燒室 (10) 及第二氣室 (9) とに充當し、各分割氣筒室の側壁に吸氣管 (22)(23) を閉口すると共に各氣筒の燃燒室及氣室を透氣管 (16)(17) で連絡せしめた内燃鑿岩機で、軸に串着せる 2 筧子の吸排作用により曲柄及勢輪の作用によらず混合ガスを自

圖-6.

